



第1幕・第2幕

主な登場人物

美田 野秋：イラストレーター

神沢 松子：大手保険会社社員

野沢 達夫：野沢交易（不動産等の会社）・社長

野沢 志穂：野沢交易・社長夫人

井川 秀男：野沢交易・部長

永田牧師：聖ヨハネ教会の牧師

山野刑事

ワゴン車のA：会社社長

ワゴン車のB：ニートの若者

ワゴン車のC：離婚経験者

第1幕

ヨコハマの丘の中腹の、古い6室のアパート。その一階の、ひと部屋。4畳半ほどの広さ。部屋の左奥に、ユニットバスの淡茶のドアが付いている。淡いブルーのカーテンを、半分開いた、小さな窓の傍で、美田はイラストを描いている。そして、ふと手を止めると立ち上がり、壁ぎわの箆笥の、上の引き出しを引き出す。中から、小さな金属性のチョコレート菓子の箱を取り出す。ちょうど、お札の入る手頃な大きさに、蓋をあけると、10枚ばかりの1万円札の束を取り出す。それを数えた後、机に置き、箱から今度は通帳を取り出す。通帳を開くと、軽いため息をつく。

美田（独白）合わせて、約40万円。あと4、カ月位は、何とか暮せるだろうか？ともかく、身の整理を急がなくては。今までも徐々に、かなり進めては来たけれど、いよいよ、仕上げの段階に入らなくては。

（野沢交易が、払ってくれた、風景や美人画のイラスト料 {エコバックやハンカチ、バン

ダナ、ストラップ、紙袋などに使用された}も、契約の切れた今では、残りあとわづかであった。どう節約しても、あと半年はもたない。美田は今度はパソコンに向かい、急いでいつもアクセスしている、ある自殺サイトを呼び出す。(美田は、真剣な顔でその中の情報を次々とチェックしはじめる。)

第2幕

雨の日の、横浜の高級住宅地の、古い洋館。ここの入口付近の3室が、野沢交易のオフィスになっている。入口のホールの椅子に、美田が座っている。まもなく、ひとつの室から、六十歳くらいの部長の井川が出てくる。

井川 いやいや、お待たせしました。お話は、社長から、聞いております。社長は、急用が出来まして、宜しくとの事です。

(井川、向かいの椅子に座る。そして、かすかに微笑しながら、話し出す。)

井川 では、イラストを、見せて頂けますか。

美田 はい。どれか、お気に召して頂けると、いいのですが-----。

(美田、大きな布袋から、たくさんのイラストを取り出す。井川、ひとつずつ、それを見て行く。美田、しばらくそれを見ている。)

美田 あのー、アレでしたら、すぐに持ち帰りますが。

井川 いやいや、なかなか結構ですよ。ただし、正式決定までには、かなり時間がかかりますので。あと、長期間に渡って、使うこともありますので、新しい方は、著作権込みで、買取りの形になりますが、それでも宜しいですか？

美田 ええ、それで結構です。よろしく、お願い致します。

井川 それでは、お預かり致します。いま、

預り証を、お持ちしますので、お待ち下さい。

(井川、部屋に戻って行き、間もなく戻ってくる。元の椅子に座る。)

井川 では、こちらが預り証です。それと、
こちらは本日、来て頂いたギャラです。

(井川は美田に、茶色い封筒を渡す。)

井川 なかに領収書がありますから、あとで
記名・捺印して、郵送して下さい。

美田 分かりました。

井川 それでは、これで失礼します。

美田 あっ、あっ、どうも。失礼します。

(美田は、荷物を取り、席をたつ。ゆっくりと出口のドアに向かう。舞台は、次第に暗くなって行く。)

第3幕・①

第3幕

5ヶ月前の区立港図書館のラウンジ。3台の自動販売機が、壁際に並ぶ。飲み物や、カップラーメン、菓子パンなど。美田は、紙コップのコーヒーを買って、窓際の席に座り、コーヒーを飲みながら、眼の下の住宅街の向こうにある、大きな港町を見つめる。

そこに、突然の悲鳴が聞こえてくる。そして、あわただしい人々の動きと会話。ラウンジにいる、他の5人の客達も、聞き耳を立てる。そこへ、客のひとりと知り合いの、若い男Dがやって来る。

D 入口の方で、誰かが、怪我をしたようですよ。階段で、滑って転んだとか。

(客のなかの3人が立ち上がって、入口に向かう。美田も、それに続く。そこへ下手から、両脇を2人の女性〔館員と、友人の神沢〕に支えられた、野沢志穂がやって来る。スカートと足に、血の滲んだ、2枚の、エルメスの大きなスカーフを巻き、青い顔で、痛みを堪えて、すこし震え、やや放心状態にいる。客も美田も、隅に寄って立ち止る。椅子に座らせると、館員の中年女性は、「それでは、もう一度、救急車の確認をして来ます。」と言って、去って行く。)

神沢 救急車がくるまで、ここで待たせて下さい。それと、ここに血液がB型の方、おられますか？すこし出血しているので、万一のため、一緒に行って欲しいのですが。

(一瞬、全員が黙ってしまう。そして、女子高生のひとりが、おずおずと「私、A型なんですけど」と答える。すると、連れの2人も、「私は、O型なんですけど。」「私も、Oなん

です。」と、答える。

美田 あっ、あっ、僕はBです。

神沢 あら、良かった。

D 僕は、AB型なんです。

E 僕はBなんですけど、4時からアルバイト
がありまして。済みません。

神沢 そう。じゃあ、結構よ。それでは、あ
なた行って貰えるわネ。お名前は？

美田 あっ、美田と申します。私は、特に用
事がないので、もし宜しければ。

神沢 悪いけど、願いますわ。多分、必要
は無いと思うけど、私はこの方に大変な
責任があるので。経費がかかったら、あ
とでそれ以上に、お支払いしますわ。

美田 いえいえ、そんな事、結構です。すこ
しでもお役に立てるのでしたら。

第3幕・②

(そこへ、救急隊員2人が、ストレッチャーを持って駆け込んで来る。野沢は、それに乗せられ、神沢、美田とともに、下手に去って行く。)

(暗転)

病院のロビー。三田は、血液検査のあと、使用するかは未定であるが、神沢の強い希望で、とりあえず血液を献血したところである。すこし青い顔をしている。そこへ神沢が、コーヒー入りの紙コップを、持ってやって来る。

神沢 まあ、ご苦労さまでした。本当に、有難うございました。野沢様は、救急処置が済んで、いま検査の結果を待っているところですよ。痛みも、酷いのは取れてきたようです。

美田 そうですか。それは、良かったですね。

神沢 コーヒーを、お持ちしました。どうぞ。

美田 どうも。頂きます。

(受け取って、ひと口、続けてもうひと口飲む。)

神沢 それと、これは、野沢の奥様からの、とりあえずのお礼と、お車代なのですが、

本当に有難う御座いました、と、くれぐれもお伝えするように、言われまして。

なお、後日、改めてお礼に伺いますから、と。

(神沢、美田に、厚い白い封筒を渡す。)

美田 えっ、これは。

神沢 だから、とりあえずのお礼です。血を採っちゃったから、好きな物を食べて、すこしでも栄養を付けて、回復して頂きたいと。

美田 そんなご心配は、どうぞ為さらずに---

神沢 貴方は知らないと思うけど、野沢様の

お家は、この辺りで、大変な名家なの。
つまり、お金の価値が、庶民とはひと桁、
ううん、2桁違うのよ。

だから、純粹にこれで栄養を付けて頂
きたいのよ。それに、また必要になって、
願うするかも知れませんし。売ってい
る血は、怖いって言うでしょ。

美田 -----そうですか。それでは、遠慮なく。

神沢 それと、こちらは、私からの願いな
の。良かったら、ぜひ検討して頂ける。

(神沢、美田に、名刺と数枚のパンフレット
を渡す。ある大手の生命保険会社のもの。)

神沢 私、いちおうキャリアウーマンって、
言われているの。成績は、社内でいつも
十番以内なのよ。その半分は、野沢様の
サポートのお陰なんだけど。

美田 申し訳ないんですが、私、収入が乏し
いものですから。とても、保険までは。

神沢 どんなお仕事を、してらっしゃるの？

失礼だけど、ご収入はいかほど？

美田 いちおう、イラストレーターなんです
が。といっても、実績は、母親の知り合
いの紹介で、小さな雑誌に、4、5回載
せて貰っただけなんですけど。だから、
貰ったお金も、合計で2万円足らず、な
んですよ。

神沢 まあ、それは大変ね。でも、どうやっ
て、生活してらっしゃるの。

美田 まあ、両親の残してくれた貯金や、保
険の支払い金が、まだ多少ありまして。

神沢 それは、良かったわね。私も離婚した
あと、子供を抱えて、途方に暮れたの。
そんなとき、大学のときの親友だった
志穂さんが、手を差し伸べてくれたの。
だから、役立つときにすこしでもお役に
立ちたいの。

-----では、私、そろそろ奥様のお部屋

に、戻りますので。今日は、本当に有難
うございました。

（神沢、立ち上がりながら頭を下げる。美田
は、座ったまま、力弱く「どうも、どうも」
と言いながら、頭を下げる。）

第4幕

第4幕

図書館での事故から、約3ヶ月後。美田の、古いアパート。その一階の、ひと部屋。4畳半ほどの広さ。淡いブルーのカーテンを半分開いた、小さな窓の傍で、美田はイラストを描いている。そこへノックの音が、小さく2回ずつ、2度鳴る。美田は、立ち上がって、ドアの前に立つ。

美田 どなたですか？

神沢 神沢です。先日は、大変お世話になりました。

(美田はドアのチェーンをはずして、ドアを開ける。)

美田 あっ、どうも。こんにちは。

(神沢の後ろには、野沢夫妻がいる。美田は何度も、小さく頭を下げる。)

志穂 先日は、誠に有難うございました。お陰様で、だいぶ良く治りましたので。

志穂は、深く頭を下げる。

野沢 家内が、大変お世話になりました。誠に、有難うございました。

野沢は、菓子折りを、美田に渡し、深く頭を下げる。野沢は、日焼けしたゴルフアータイプの、ハンサムな40代の男。

美田 いえいえ、どうぞお気になさらずに。

とても狭いところですが、どうぞお入りになって下さい。

三人は、ひとりずつ部屋に上がってくる。美田は、押入れから、薄い小さめの座布団を出して並べ、三人に勧める。そして、隅の冷蔵庫から、ウーロン茶のボトルを出して、イラストを描いていた机で、三つの湯飲み茶碗に、注ぎ分ける。三人は、その間、珍しそうに、部屋のなかを見渡す。

美田 ウーロン茶ですが、宜しければどうぞ。

(客たち、「頂きます」と、2、3口飲んでから、神沢が切り出す。)

神沢 かなり狭い、いやや、陽当りのいいお部屋なのね。

美田 ええ、こんなに狭くても、私にとっては家賃が高いものですから。それに、働く力がなくて、収入が乏しいものですから。恥かしい事なんです。

野沢 いま、机の上の絵を、見させて頂いたのですが、わが社と、かなりテイストが合いますから、私の会社のグッズなどに、使えるかも知れません。いちど、作品を持って、いらして下さい。審査に通れば、印税をお支払い出来ますよ。

美田 有難うございます。機会がありましたら、ぜひトライさせて頂きます。

志穂 ぜひ、お待ちしておりますわ。

(志穂は、ほのかに微笑む。)

野沢 それでは、そろそろ失礼しましょう。

(野沢、二人を促す。)

美田 こんなに狭くては、とてもお引止めできませんね。わざわざ来て頂いて、本当に有難うございました。

(客たちは立ち上がり、別れの会釈をしながらドアに向かう。)

(舞台は、次第に暗くなる。)

第5幕①

第5幕①

それから、約1年後。

平日ながら、全国からの観光客で、かなり賑う、山下公園。そこへ、美田と神沢がやって来る。

美田 でも、よく気が付かれましたね。私は、
珍しく、急いでいたものですから。

神沢 たまたま、喫茶店の窓際にいたもので
すから。お客様の話が、すこし長引い
てしまって。-----ところで、イラストは
採用して頂けたのかしら？

美田 あっ、あっ、お陰様で。使って頂ける
ことに。買取りで、五年払いなんですよ。
本当に、有難いです。

神沢 まあア、良かったわね、それじゃあ、
私の保険にも、入って頂けるわねえ。

美田 御免なさい。部屋を見て頂いたから、
お分かりだと思いますが、経済的な余裕
が、まったく無いものですから。

神沢 -----そう、残念ね。でも、その気にな
ったら、連絡してね。

美田 あっ、はい。

(神沢、屋台から、コーヒーを二つ買って、
ひとつを美田に渡す。そして、二人で、海の見渡せる、ベンチに座る。)

神沢 この間の、野沢様のお家のパーティー
に、お出でにならなかったのね。

美田 ええ、私など、とても恐れ多くて。イ
ラストを買って頂いただけでも、本当に
感謝しているんですよ。

神沢 失礼なんだけど、あなたは、どういう
人なのかしら。私、商売柄、たくさんの人
を見てきたけど、あなたは、よく分か
らないわ。フワフワしていて、ボンヤリ
していて。貧乏なのに、焦ってないし、

惨めじゃないし、悩んでないし。

美田 私は、すべてに、あまり思い入れが無いんですね。食べ物も、ソバとか即席ラーメンに、卵でも落せば、私には十分にご馳走ですし。トーストとコーヒーだけでも、嬉しい。まあ、アレルギーなので、やたらな物は、危なくて食べられない、ということもあるんですが。

ファッションも、普通で十分だし。旅に出ても、神経が疲れて、あまり、楽しくないし。

そりゃあ、たまにはラグジュアリーな暮らしに、憧れますけど。

神沢 まあ、エコノミーな方なのね。私は、おいしい物が、いっぱい食べたいし、ブランド物も、いっぱい欲しいわ。豪邸や億ションにも、住んでみたいし。宝石や有名な人の絵も、たくさん欲しいわ。いい服を着て、いい店に行くのは、すごい快感なのよ。

美田 -----普通は、そうなんでしょうねえ。私は、変わっているのかも。それに、精神的に、生き抜くだけで、やっとの日々でしたし。父母がいなければ、とてもこの年まで、生きては来れなかったんですよ。-----すこし人に心を開きかけると、なぜだかビシャツ！と、手痛いしっぺ返しを受けるのですね。それで、心が萎えて、またピタッと閉じてしまう。その繰り返しの中からは、だんだん、自分に本当に必要なものは何かと、自分に問い始めて-----。そして、だんだん、いまの私が、出来上がってきたんですね。

神沢 まあ、そうだったの。貴方も、色々、大変だったのね。私には、よく理解できない事だけれど。

野沢 私は、これでも、わりと満足している

んですね。私のようなナイナイ尽くしが、
ここまで生きれた事自体、有難いことな
んですから。社会に、感謝しているんで
すよ。

(二人は、なおも話つづけている。舞台は、次
第に暗くなる。)

第6幕

(暗転)

十年後、同じ山下公園。ベンチに座って、美田が、コーヒーを飲みながら、海を見ている。午後3時の公園には、観光客が疎らにいて、海を見たり、お喋りをしている。

そこへ、二人の中年女性を連れた、神沢が、通りかかる。美田の姿を認めて驚くが、いったん通り過ぎて、間もなく、一人で戻ってくる。

神沢 まあ美田さん、お久しぶり。懐かしいわあ。

美田 あっ、こんにちわ、お久しぶりです。

お元気でしたか？

神沢 ええ、お陰様で。4, 5年前に、中華街で、すれ違って以来ね。

美田 ええ。お客様を、連れていらっしやっただので、2, 3分しか喋れなかったですけど、ね。

神沢 今日も、馬車道や、みなと未来の辺りを、ご案内してきたの。いま、タクシーに乗せてきたところ。

美田 そうですか。大変でしたね。まだ勤めてらっしゃるんですね。

神沢 ええ、お陰様で。でも、いまは、契約社員なの。週、3日の。私も、もう55歳でしょ。フルタイムだと、身体が疲れちゃって。だから、去年、いったん早期退職したの。退職金が、5割増しになるから、色々、助かったわ。住宅ローンを返したりね。いまは、いままでのお客様の、フォローが主なの。出来れば、あと5年位は、勤めるつもりなの。

美田 そうなんですか。あっ、野沢様は、お元気ですか？

神沢 ええ、お元気よ。でも、このところ、業績が、いまいちのようなのね。ほら、

バブルがはじけたでしょ。それで会社を、
すこしずつ、整理・縮小しているのよ。

美田 そうですか。井川さんは？

神沢 3年前に辞めて、いまは私と同じ、週
3日の嘱託社員なの。もう、70歳だし。

美田 そうですか。私も、5年間、お世話に
なりました。

神沢 たまに、貴方の話も出るのよ。だから、
こうして外で会ったときのことを、話し
てあげるの。

美田 5年間、お金を頂いて、本当に助かり
ました。あれから、コンクールに応募し
たり、勇気を振り絞って、あちこち売り
込みに歩いたんですが、お恥ずかしいこ
とにまったく芽が出なくて-----。

神沢 まあ、気長に頑張ったら、宜しいわ。
いつか、道が開くときも、あるわよ。私
だって、勤めたての5年は、下積み暮ら
しで大変だったわ。子育てもあったから、
心身は限界よ。でも、両親や、野沢様の
応援があったから、どうにか乗り越える
ことが出来たの。

美田 お強いんですね。私にも、その強さの
1%でもあったなら-----。

神沢 まあ、嬉しいわ。お褒めに与って。

(二人の話は、まだ続いていく。舞台は、次
第に暗くなっていく。)

第7幕①

第7幕①

それから、7年後。東京郊外の、国営の大公園に向かう、一台のワゴン車。

(舞台上に、4人の乗ったワゴン車。上手に、車内の様子を映し出す、大きな画面。)

しばらくは、皆、押し黙っている。やがて、それぞれが、少しずつ、自己の来歴を、語り始める。運転をしている、40代の垢抜けた女性、Cは、静かにそれを聞いている。

A 実は、あと10日位で、自分の会社が、倒れてしまうんです。-----まあ、最後の望みなんですが、私の保険金で、何とかならないかと。借金は、合わせて2億ぐらいなんですが。借入金を返して、すこしは残ると思うので。-----馬鹿な、男ですネ。

美田 -----私は、働く能力に乏しい人でして。

全身、アレルギーの様な持病がありまして。それで、働くことが、難しいんですよ。勇気を振り絞って、事務系のアルバイトや、テレビショッピングの深夜受付などを、何度かやってみたんですが。どれも2、3日で、発作が起きてしまったり、体力的に無理だったりして。-----結局、働く事は、あきらめてしまったんですよ。ずっと、親の年金に頼ってきたのですが、15年前に、父が亡くなって、母もそれから3年後に亡くなって-----。切り詰めて、生きてはきたんですが、貯金もあと僅かに-----。それに、アパートも、かなり老朽化してきて、先月いっぱい、退去しまして。行く所も、ありませんし。とりあえず、お決まりのネットカフェに-----。あまり、心身が汚れない内に、天国の河を渡りたい、というのが、最後の願いなんです。-----この半年間、

あれこれ、じよじよに身边を片付けて来ました。近くの教会に、月に二度ほど通っていたのですが、千葉に越すからといって、退去の前に、来年のバザー用にと、イラストを全部置いて来たんです。信者の人達にとっては、寄付と同じですから、一枚5千円で、10枚は売れますので。あと、思い出のある場所を、幾つか訪ねてみたり。父母の、お墓を訪ねて、お詫びをして。いま、もう2万円位しか、持ってないんですよ。渡し舟が、安いといいですネ。あっ、あと、今日ネットカフェを出てから、教会の牧師さんに、手紙を出して来たんですよ。ビニールに10万円を包んだのも同封して。申し訳ないのですが、あとの事を、お願いしたので。

B ---僕は、例のニートでして。高校を出て、ファミレスに勤めたのですが、5日で辞めました。あとは、ほとんど家に居て。

もともと、対人恐怖症なんです。特に酷い、イジメを受けた訳ではないんですが。もう、生まれつきなんでしょうネ。人と関わるのが、苦痛なんですネ。普通は、関わるのが、喜びを生むんでしようが-----。親には、申し訳なく思っています。でも、兄は大学も出て、かなりうまく世を渡っていますし。あとの事は、あまり心配ないと。-----この苦しきそのまま、あと40年も、とても生きていけないですし。今回、皆さんと一緒に、天国に行くので、心強くとても安心しています。

第7幕②・第8幕

第7幕②

C -----私は、皆さんご存じのように、アレコレあって、疲れちゃったの。亭主の浮気と、その相手の若い子に、子供が出来て。あとは、離婚までのドロドロ。結局、家と、お金を少し貰って、別れて。その間に、何回か、こういう集まりに参加したの。でも最初のは、下見に参加しただけで、本番は、行かなかったの。ま、だ心が、そこまで決まっていなかったのネ。二度目は、途中でうやむやになって、中止。三度目のときは、本番の予定日の前に、父親が急に倒れて。そのあと、それから1年の間に、きちんと身辺を片付けるために、アレコレ動いたの。子供はいなかったから、動くには助かったわ。まず、妹の一家が、アパート住まいだったから、家に呼んで、光熱費と水道代だけで住んで貰ったの。姪と甥が、ひとりずついるの。まだ、幼稚園だったから、毎日、バスで送って行かせて。よく陽の当たるひと部屋だけ、自分用にして。妹の旦那の勤めは、少し遠くなったけど、家賃がタダだし、一戸建てだから、ノビノビ出来るでしょ。皆、喜んでくれたわ。私の両親も。-----それから、貯金や持ち物の処理。貯金は合わせて一千万位しかなかったけど、毎月、違う銀行に行って、ひとつずつ解約して、全部、現金にしたの。現金で残っていれば、妹も何かと便利でしょ。離婚の慰謝料で、振り込まれたお金よ。バッグや宝石は、今日、身に付けているリングやネックレスを除いて、妹や友達、それにお世話になった人達にプレゼントしていったの。気付かれないように、誕生日とか、お正月とか、でき

るだけさり気なく、渡せる時を選んで。
あと、雑貨なんかは、家族の気に入っているもの以外は、少しずつ、捨てたりバザーに出したり。フリマも、行ったわ。-----
そうこうする内に、予定の一年が過ぎてしまって。ほぼ片付けが終わってから、また打ち合わせや、下見に参加するようになったの。そして、8度目にとうとう本番に参加したの。海辺の人気のあまり無い街。ひとり来なかった人がいて、参加者は、全部で3人だったの。-----
練炭を焚き始めて、クスリを呑んで朦朧としてきたの。そこへ、なんと女子高生の両親が、車で駆け付けて、突然のジ・エンド。でも、その子の親も、世間に知られたくないから、私達が、このまま黙って家に帰る事を条件に、何もなかった事にしたの。-----
そして、10度目が今回。これで、最後って、決めているの。もうすべて綺麗にしてきたから、心残りはないし。-----
あっ、スーパーが見えて来たわ。寄りましょう。私、おトイレを借りたいの。

A ああ、良かった。僕も、お願いしようと、思っていたんです。トイレと、部下や家族に最後の連絡を取りたいので。

美田 私も、おトイレを。

B 僕も、家族に葉書を書きます。

C では、30分の休憩を取りましょう。さあ、これで、今生とのお別れネ。

(上手の画面、大型スーパーの建物と、その前面の駐車場に変わる。4人は車を降りて、スーパーに向かう。舞台は、次第に暗くなっていく。)

第8幕

4人が乗り合わせた車は、東京郊外の大公園

の傍の、夜の空き地にいる。丈の低い草むらのなか。それぞれ、車内で物思いに耽っている。やがて、AとCが外に出て、四つの七輪に練炭を熾し、車内に持ち込む。その間、美田とBは、太い粘着ガムテープで、二つのドア以外の車内のすき間を、塞いでいく。そして、AとCが車内に戻ると、ペットボトルの飲料水やウーロン茶、ジュースなどで、睡眠導入剤を飲む。

A では、天国の入口で、待ち合わせましょう。

美田 遅れたら、待ってて下さいね。

B いつまでも、待っていますよ。

C 知らない人たちにも、迷惑をかけるのは、大変、申し訳ないけど、いまはただ、許して貰いましょう。

(舞台は、次第に、暗くなっていく。)

第9幕

第9幕

永田牧師、鎮痛な面持ちで、ドアから、山野刑事と出てくる。そして、山野に言う。

永田 私がもう少し注意を払っていれば、あの方は死を択ばなかった、のかも知れませんね。-----とって、私どもが、生活の面倒をみることも出来ないのですが。

山野 あなたの責任では、ありませんよ。人には、それぞれ事情があるのですから。

では、書類に判を、押して頂けますか？

ご遺体の引渡しは、なるべく急ぎますから。

永田 2、3日、かかるでしょうか？

山野 そうですね。まず、そんな所でしょう。

お電話を差し上げますよ。

永田 宜しく、お願い致します。遺骨は、この方のご両親の、お墓のあるお寺に、埋葬したいと思っています。

(永田と山野、下手の部屋のドアを開けて、消えていく。舞台は、すこしずつ暗くなっていく。)

(完)

かなり、負の世界を、描いてしまったのかも知れません。いま悩んでいる方は、このように悩んでいる人々もいる、ということを知って頂ければ。近年、日本の自殺者は、年に3万人を超えとか。私は、清算のつけ方として、あるいは病苦から逃れるためなど、必ずしも、否定派ではありません。ただし、ギリギリまで、生きることを追求したうえでのことです。出来るだけ、生き延びる道を、時間をかけて、模索して欲しいと思います。人生は、多くの人にとって、100年足らず、なのですから。私自身も、自信を失いつくし、生きる気力を無くした日々もありました。足掛け、何十年もの間。すべてを忘れ、リセットする時間を、各自が持ってみませんか？

この作品の、劇場・学園祭などでの、上演許可は、ヤフー「ハーブの名歌・ゲストブック・内緒」まで。意図が公的啓蒙・普及等で、改竄等の意思がないかぎり、無料とします。また、ひとり芝居や数人での上演（全役を、いちぶ朗読などの技法で。ひとり芝居のときは、何幕か短縮する。）の形でもいいと思います。

さて最後に、この10年で、私のもっとも感動したエピソードを、ひとつ。10年程前だったか、テレビの深夜のドキュメンタリーで、浅草の隅田川べりに住むホームレスの特集がありました。4、5人の人の生活を紹介したのですが、その内の一人が、カラスを一羽ペットにして暮らしていました。隣接する公園で、巣から落ちたらしい3羽のヒナを拾って、餌を与えて育てたとか。その内の2羽は、すでに少し前に巣立っていったとか。残ったこのカラスは、大きさはすでに普通のカラスに近いのですが、飛ぶのが下手で、高く上がることも、遠くへいくことも出来ないのだ、と。

*女性のインタビュアー「この鳥、これから、どうなさるんですか？」

ホームレスの男性（60才前後？）「いいじゃないの。自由に飛べるようになるまで、ここにいれば。追い立てるように、巣立ちさせなくても。飛べるようになるまで、俺のそばにいればいいさ。」

私は、深く感動しました。ホームレスという厳しい状況を生き抜いているオッチャンが、こんな素晴らしい人生哲学を持っているなんて。そう、飛べない小鳥（大鳥もOKです）は、けして巣立ちを急がせてはならないのだ。では、ブルー&インザダークな世界を、体験してみてください。